

2011年11月7日

光通信用品の中国製造子会社を設立

住友大阪セメント株式会社（東京都千代田区、社長：関根 福一）は、中国の広東省、東莞市に光通信用品（LN変調器）の製造子会社を設立いたしました。

会社名は、『東莞住創光電子技術有限公司』で、住友大阪セメント株式会社の100%出資の子会社となります。

新会社では、現在、日本で製造を行っているLN変調器の製造を行います。近年、スマートフォンやクラウド・コンピューティングの進展等により、データ通信容量が飛躍的に増加していますが、LN変調器は、このような高速通信に欠かすことのできないキーデバイスとなっています。当社の顧客は、北米、欧州、アジアとグローバルに広がっている為、昨今の円高の進展という環境下においてもコスト競争力を維持していくために、中国での生産を決定いたしました。

中国、特に広東省は、労務費の高騰等の問題も発生しておりますが、日本と比較するとまだまだ人件費は安く、さらに、松山湖工業区というハイテク企業専用の国家級の工業区を選択したことにより、インフラの整備や部材の調達等においても、LN変調器のような高度な光通信用品の製造に適した場所であると判断致しました。

当面は、10G変調器の製造を中国で行い、より高速な40G超変調器は国内で生産するという体制で事業を推進していく計画です。また、将来的には、LN変調器だけではなく、その他の光部品の製造等も視野にいれております。

新会社の概要は以下の通りです。

1. 会社名：東莞住創光電子技術有限公司
Dongguan Sumi Sou Optoelectronics Technology. Co., LTD.
2. 設立年月日：2011年3月9日
3. 場所：広東省 東莞市 松山湖工業区
4. 資本金：420万USドル（住友大阪セメント100%出資）
5. 総投資額：840万USドル
6. 生産体制：第一期（11/10～12/6） 2,000台/月 40名
第二期（12/7～ ） 4,000台/月 65名

以上

【L N変調器の用途・特徴】

L N変調器は、電気信号を光信号に変換するデバイス。光通信システムの心臓部である電気/光変換部で使用されている。その特徴は、伝送距離が長く伝送速度が速いことにあり、海底通信や陸上幹線系システムにおもに採用されている。

【会社所在地】



(松山湖工業区)



(東莞住創光電子技術有限公司)